

教育委員会では、町内の学齢期の子どもたちの実態を明らかにし、家庭・学校・地域がそれぞれの立場から、子どもの健全育成のために何をすべきかを考えるために、平成17年5月、町内の小学校3～6年生の児童459人、中学校1～3年生の生徒349人を対象に「学習環境実態調査」を行いました。

子どもの学習環境の姿を知っていただき、子どもの健やかな成長についてみんなで考え、みんなで育てる校区コミュニティづくりに役立てていただくことを心より期待いたしております。

子どもの学習環境の現実の姿をご存知ですか？

5回シリーズ

第4回

このシリーズの読み方

実態調査は、子どもたちに質問内容を示した後、「自分の思っていることに一番近いものをア、イ、ウ・・の中から選んでください」などの形式で実施しました。

このシリーズでは、学年ごとに集計した結果をグラフで紹介し、学年または小、中学校ごとの子どもたちの現実（特徴や傾向、問題点など）についてコメントしながら、町民のみなさんに「これからのより良

い子どもの育て方」を考えていただくための質問「Q」も設定してみました。

お子さんがおられる家庭では、親子一緒に話し合われてはいかがでしょうか。

また、隣近所のお母さん、お父さんで「地域の子どもは地域で育てる」方法について立ち話でもしていただければと願っております。

質問⑩ あなたは、家でどんな手伝いをしますか。いつも決まっていまするものを書いてください。また、手伝いの時間は、全部でどのくらいですか。

ア しない
イ 10分
ウ 20分
エ 30分
オ 40分
カ 50分以上

コメント

小学生は、手伝いを「しない」児

童が約2割います。手伝いの時間は、どの学年も5割近くの児童が10～20分間で、その内容は風呂掃除が一番多く、洗濯物たたみなどの順となっています。

中学生は、手伝いを「しない」生徒が4割近くもいます。30分以上手伝う生徒は2割以下で、部活動で帰宅が遅いことなどによるものと推測されます。

なお、グラフには示していませんが、中学生の手伝いの内容は男女で異なり、男子は風呂掃除や犬の散歩などで、女子は食事の準備・後片付け、洗濯・洗濯物たたみなどの順となっています。小中学生間では、部活動や学習塾

など、放課後の生活時間帯が異なることから、手伝いの時間にも差が生じているようです。

家族の一員としての所属感や連帯感をもたせるためにも、家族に貢献する場や感謝する場を持たせることが大切ではないでしょうか。

特に小学校高学年以上の子どもたちは、家庭科で実習したことを、家庭生活の中で体験させる場を作っていたのだと思います。

Q 「どんなことをしたら家族が助かり、家族に喜んでもらえるか」を親子で話し合ってみましょう。

質問⑪ あなたは、「おこづかい」を、一か月にどれくらいもらっていますか。

ア もらっていない
イ 500円
ウ 1000円
エ 1500円
オ 2000円
カ 2500円
キ 3000円

コメント

小学生は、3割強の児童がもらっておらず、5割の児童が500円～1000円、残りの2割が1500

円以上となっており、高学年では3000円以上が5%います。

中学生は、一年生の3人に1人、二・三年生の6人に1人がもらっていません。一・二年生の半数、三年生の2割が1000円～2000円、二・三年生の2割は3000円以上となっています。この場合は、塾への交通費や軽食にも使われているようです。

小・中学生共通して、使途についての調査は実施していませんが、金銭教育の面からも「お小遣い帳」に記入させるなど、有効で適切な使用方を指導することが大切です。

特に、「もらってない」と「3000円以上」の子どもの間での金銭の貸借や、高価な買い物・所持品などについては、保護者と教師の連携した適切な指導が必要でしょう。

Q 保護者はお金（給料など）を手に入れるために、どのような働きをしているのか、仕事のきつさや喜びなどを、お子さんに話してみたいかがでしょう。

質問⑫ あなたは、心配ごとや悩みごとがあるときは、誰に相談しますか。

ア 母 イ 父
ウ 姉 エ 兄
オ 先生 カ 友達
キ その他

質問⑬ あなたの将来の「ゆめ」や「希望」はなんですか。また、その理由は何ですか。



風呂掃除の手伝いをする子ども

うちの子 よその子
みんなで考え みんなで育てよう

子どもの現実「学習環境実態調査」から